

えがお
愛媛の

とくべつし えんがっこうぎのうけんてい
えひめ特別支援学校技能検定

テキスト

は ん ば い じ つ む

販売実務

し ょ う ひ ん か

－商品化－



愛媛県イメージアップキャラクター
みきやん

え ひ め け ん き ょ う い く い い ん か い
愛媛県教育委員会

R7年度（12訂版）

しょう どうぐいちらん 使用する道具一覧

		
てあら ようせんざい 手洗い用洗剤	つめ 爪ブラシ	しょうどくえき アルコール消毒液
		
ペーパータオル	コンテナ	しょうひん 商品
		
びくろ ビニール袋	バッグシーラー	デジタルばかり
		
ラベル	マジック	

しょう 服装

		
エプロン	ネットぼうし 帽子	なふだ 名札

【商品化】 手順表

せいげんじかん ぶん
☆制限時間15分

さぎょうこうてい 作業工程	さぎょうないよう 作業内容	しゃしん 写真・イラスト等
1 み 身だしなみ	① えいせいてき ふくそう 衛生的な服装をしている。 ※禁止事項：長い爪、マニキュア、腕時計、アクセサリー ② しんさいいん ばん じゅんび 審査員の「〇番△△さん、準備をしてください。」に対して、返事をする。 ③ ちゃくよう エプロンを着用する。 ※ひもを正しくする。 ④ ぼうし ちゃくよう ネット帽子を着用する。 ※ネットの中に髪の毛を入れる。 ⑤ なふだ ちゃくよう 名札を着用する。 ※エプロンのフックを利用し、水平に着ける。 ⑥ ふくそう かがみ かくにん ただ なお 服装を鏡で確認し、正しく直す。	  エプロンの着用  ぼうし ちゃくよう 帽子の着用
2 さぎょうかいし 作業開始 れんらく の連絡	① いち た て あ スタート位置に立ち、手を挙げ しんさいいん め み なまえ はじ 審査員の目を見て、「(名前)です。始めます。」 い と言う。	
3 てあら 手洗い ☆①～④の こうてい ぶん 工程を2分30 びょう い ない おこな 秒以内に行 う。	① て あら てあら てじゅん 手を洗う。(手洗いの手順) よ び せんじょう せんざいあら ※予備洗浄→洗剤洗い→すすぎ洗いの順に行う。 て ひら こう ゆび あいだ おやゆび つ ね ゆびさき てくび 手の平と甲・指の間・親指の付け根・指先・手首など、 りょうて かくふ い じゅんじょ あら 両手の各部位を順序よく洗う。 ② て ふ ペーパータオルで手を拭く。 ③ なが だい うえ ふ 流し台の上をペーパータオルで拭く。 ④ しょうどくえき て す こ アルコール消毒液を手で擦り込む。	☆計時スタート   ☆計時ストップ
4 しょうひん 商品の かくにん 確認	① ぶりようひん と のぞ 不良品を取り除く。 しょうひん もの み しょうひんよう ※商品にならない物を見つけ、商品用コンテナから じょがいひんよう い ぶりくい 除外品用コンテナに入れる。袋入れをしていて、不良品 があれば、除外品用コンテナに入れる。	☆計時再スタート 
5 ぶりくい 袋入れ けいりょう ・計量	① さぎょう おこな い ち いどう はかりを作業の行いやすい位置に移動する。 ② しょうひん ていねい ぶりくい 商品を丁寧に袋に入れる。 しょうひん きす つ ていねい あつか ※商品に傷が付かないように丁寧に扱う。	

		指示された範囲内の重さになるように、はかりで計量しながら、袋に入れる商品の量を調整する。 ※デジタルのはかりに、袋ごと載せて計量し、指示書に示された範囲内の重さにする。	 
		指示された数の袋を作る。	
6	袋閉じ	① シーラーを作業の行いやすい位置に移動する。 ② シーラーを使って袋を閉じる。 ※閉じ口から商品までの隙間ができないように、袋の口をねじって、シーラーで閉じる。 ③ 全ての袋を閉じる。	
7	ラベルは貼り	① 袋詰めした日付をラベル用シールに正確に記入する。(加工日 ○月△日を記入 → 「○/△」) ② 袋中央の見やすい所にラベルを貼る。 ※ラベルを水平に貼る。	
8	コンテナ詰め	① 袋をコンテナ内に並べる。 ※商品の入った袋を置くとき、丁寧に置く。袋と袋の間に隙間がないように、完成品用コンテナの端から詰めて並べる。	
9	片付け	① 使用した道具類を元の位置に戻す。 ※印に合わせて、元あったように戻す。	
10	作業終了を報告	① スタート位置に立ち、手を挙げる。 審査員の目を見て、「(商品名)の袋詰めが、終わりました。不良品の(商品名)が入っていましたので、取り除きました。ありがとうございました。」と報告する。	 ☆計時ストップ

☆ 制限時間は15分です。

落ち着いて、自信をもって取り組みましょう。

しょうひんか かいせつ 【商品化】解説

1
身だしなみ

●販売サービスでの商品化は、お客様に安心して気持ちよく商品を買物していただくための仕事です。お客様が、不快な気持ちにならないように、衛生面や身だしなみに、常に気を付けることが大切です。

●商品化で食材を扱う場合は、特に衛生面に気を配らなければなりません。決められた方法で正しく手洗いをするとともに、洗濯をした清潔なものを身に着けるようにしましょう。

●下の写真を見比べてみましょう。向かって左の写真は、エプロンを正しく着用しています。この商品化の検定では、基本的にひも付きのエプロンを使用し、エプロンが腰の位置で固定できるよう正しくひもを締めましょう。また、作業中にちょう結びが解けることがないように、固く結びましょう。

《ふさわしい服装例》



《ふさわしくない服装例》



髪^{かみ}の毛^けが出^でている

肩^{かた}ひもが落^おちて
いる。

名札^{なふだ}が曲^まがっている

●ネット帽子は、商品に髪の毛などが混入するのを防止するためのものです。事前に髪の毛を整えておいたり、束ねて留めておいたりするなど工夫しましょう。

●名札は、エプロンのフックに留め、水平になるように着けましょう。

●鏡を見ながら、身だしなみを確認し、正しく直しましょう。

●身だしなみは、手早く行うことも大切です。練習のときから、2分以内に終われるようにしましょう。

※腕まくりをする場合は、まくり上げた状態で待機してください。

2
作業開始の連絡

●連絡をするときは、はっきりとした声で話しましょう。毎日の明るい挨拶やはっきりとした受け答えは、職場でのコミュニケーションの基本です。より良い仕事をするためには、職場の人との日頃からのコミュニケーションがとても大切です。

※この商品化の検定では、作業を始める意思表示として、手を真っすぐ挙げて、連絡する審査員の目を見て、はっきり名前と作業を始める連絡をしましょう。

3 手洗い	●手洗いは手順に沿って丁寧にいきましょう。手洗い時間が短いと、細菌が除去できず、食中毒などの原因になります。また、手洗い時間が長すぎても、作業時間がなくなってしまいます。1分間程度の手洗いをしましょう。 ①-1 流水で予備洗浄をする。(ア 手の平と甲→イ 指の間→ウ 親指の付け根→エ 指先→オ 手首) -2 手洗い用洗剤を手の平につける。(水を止める。) -3 手の平で十分に泡立てる。 -4 順序よく(ア～オ)両手の各部位を5回程度こすり合わせて洗う。  ア 手の平同士や、手の甲をもう片方の手の平でこする。 ⇒  イ 指の間は、指を組んで両手の指の間をこする。 ⇒  ウ 親指の付け根は、親指をもう片方の手の平で包みながらこする。 ⇒  エ 指先は、もう片方の手の平の上でこする。 ⇒  オ 手首は、もう片方の手の平で包みながらこする。  ※爪ブラシは毛先を上側にして置きましょう。 -5 爪の間は、爪ブラシを使って洗う。 -6 流水ですすぎ洗いをする。(ア 手の平と甲→イ 指の間→ウ 親指の付け根→エ 指先→オ 手首) ② 周囲に水を飛び散らないように、手首や指を振って、水気を切りましょう。 ペーパータオル(2枚程度)を使って、水気が残らないように拭き取りましょう。水分が残っている手で作業すると、かえって菌が繁殖することになります。ただし、ペーパータオルの無駄遣いにならないように注意しましょう。 ③ 使った流し台の上は、次に使用する人が気持ちよく使えるよう、ペーパータオルで水気を拭き取りましょう。シンクに手洗い用洗剤の泡が残っている場合は、水で流しましょう。 ※残った水気はペーパータオル(2枚程度)を使って、1回通り拭いたのが十分です。 ④ アルコール消毒液をつけて、手に擦り込みましょう。手洗いと同じように、各部位をそれぞれこすって擦り込みましょう。(ア 手の平と甲→イ 指の間→ウ 親指の付け根→エ 指先→オ 手首) ※消毒後は作業に取り掛かるまで、不要な物を触らないようにしましょう。 ※この商品化の検定では、手洗いの時間を2分30秒以内としています。毎日の生活の中で、正しい手洗いの仕方を身に付けていきましょう。最初は時間がかかるかもしれませんが、繰り返し行うことが、時間短縮につながります。
4 商品の確認	●不良品が混ざると、お客様が安心して買い物できなくなります。 お店の信用にも関わります。傷物や大きさ、新鮮さなどにおいて、商品にならない物を、きちんと見分けるようにしましょう。 ●不良品を見付けたら、必ず除外品用コンテナに入れ、良品と分けるようにしましょう。 

5

袋入れ・計量

●はかりは、必ず作業の行いやすい位置に移動させ、効率よく仕事をしましょう。

●商品を袋に入れます。商品と作業台、商品と商品などが当たって音がしないように心掛け、商品に傷が付かないように気を付けましょう。お客様を大切にすると同じように、一つ一つの商品も大切に扱います。



※いろいろな商品の袋詰めを通して、商品の特性を知り、袋入れのやり方を工夫しましょう。

●商品が指示された範囲内の重さに収まるよう、はかりで計量しながら、袋に入れる商品の個数を調節しましょう。

●右図のように、袋入れした商品をデジタルのはかりに載せて、数値が止まったら、目盛りを読みましょう。数値が変わっているときは、まだ重さを量っている途中です。数値が止まるまで待ちましょう。



※商品をはかりや作業台の上に落とした場合は、必ず傷や汚れなどがないかを確認し、袋入れをしましょう。床に落とした場合は、不良品と判断して、除外品用コンテナに入れましょう。

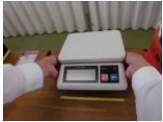
※デジタルのはかりには、「風袋」や「TARE」、「O表示」と書いているボタンがあります。これは、風袋引き機能というものです。風袋とは、皿や袋のことを意味しています。物の重さを量るときに、はかりに載せている皿の重さを引いて、量りたい物の重さだけを表示する機能です。

※この商品化の検定では、風袋の重さは考えずに、袋の重さも含めて計量してください。

●指示された数の商品を間違いなく作りましょう。

※指示書や見本を示してあるので、不安がある場合は、途中でも仕事内容を確認しましょう。

6 袋閉じ	●右図のような「バグシーラー」(シーラー)という道具を使います。シーラーは、袋の口を閉じる機械です。袋の口をシーラーの溝の部分に差し込むと、袋閉じができます。カッターも付いていて、余分な袋の先端部を切り落とすこともできます。シーラーを使う時は、必ず作業の行いやすい位置に移動させ、効率よく仕事をしましょう。 ●シーラーを使って確実に商品の袋閉じをしましょう。商品の見本を見て、袋の閉じ口から商品までの隙間ができないように工夫しましょう。袋に隙間があり過ぎると、袋の中の商品同士がこすれあって傷みやすくなります。袋の口をねじる(3~4回)ことで、隙間を減らしましょう。(シーラーで貼り合わせたテープのずれは、しっかり封ができていれば問題ありません。) ※カッターを使って、袋を切り落とすことは行いませんが、いろいろな物の袋詰めを通して、カッターの使い方にも慣れていきましょう。 ※指示書に、商品の入れ方や向きなどについての指示がある場合は、指示に従って商品化しましょう。	
7 ラベル貼り	●袋詰めした日付をラベル用シールに丁寧に書きましょう。表示は、お客様にとって分かりやすいことが大切です。あらかじめ指示された袋の数分、シール全てに日付を書くと、作業効率が良くなります。 ●ラベルは、袋の中央の見えやすい所に、水平でしわのないように貼りましょう。 ※この商品化の検定では、ラベルを貼付けた後、コンテナの中に並べるようにしています。ラベルを貼る作業場所やコンテナの位置を移動させるなど工夫して、作業効率を良くしていきましょう。	
8 コンテナ詰め	●右図のようにコンテナの端から詰めて並べることで、商品が安定し、運ぶときに傷が付にくくなります。また、限られた場所でも商品をたくさん並べることができます。商品の取扱いは、いつでも丁寧に無駄なく行いましょう。 ※コンテナには、「オリコン」と呼ばれる物があります。「オリコン」は、「折り畳み式コンテナ」のことを意味しています。 ※この商品化の検定では、コンテナの組立ては行いませんが、会社では一人で行わなければなりません。コンテナの組立方や片付け方にも慣れていきましょう。	 (例)正しい詰め方  (例)悪い詰め方

9 片付け	●次に仕事をするとき、すぐに取り掛かることができるように、道具を元の場所に正しく戻しましょう。仕事をするたびに、いつも道具を探しては、良い仕事はできません。職場の誰もが働きやすい環境作りも大切です。 ※この商品化の検定では、道具のある位置に、色テープを貼っています。印（色テープ）に合わせて、元あった位置に戻しましょう。はかりは両手で持ち運びましょう。お客様や商品を大切にすることと同じように、道具も大切に扱しましょう。  
10 作業終了の報告	●作業が終わったときの報告も、大切な仕事の一つです。必要な連絡事項も加えて、はっきりとした声で報告しましょう。仕事を行う上で、報告・連絡・相談は、とても大切です。「報・連・相」を行うことを、日頃から心掛けておきましょう。 ※この商品化の検定では、作業が終わったことの意味表示として、手を真っすぐ挙げて、報告する審査員の目を見て、はっきりと報告しましょう。必要な連絡事項としては、不良品があったことや、それをどうしたかについて、付け加えましょう。 

しょう ひん か ひょう か ひょう 【商品化】 評価表

せいげんじかん ぶん
★制限時間15分
が 月 日

こう もく 項 目		ひょうか 評価	ひこう 備考			
1 身だしなみ	①	☐ 服装：上下とも洗濯してあり、しわが無い。 ☐ 髪：髪型を整え、さっぱりしている。 ☐ 顔：ひげや鼻毛が伸びていない。さっぱりしている。 ☐ 爪：伸びすぎていない。 ☐ 靴：ひもがほどけていない。汚れていない。 ☐ その他：腕時計やアクセサリーをしていない。		「はい。」		
	②	☐ 返事：審査員を見て、適切な大きさの声で返事をする。				
	③	☐ エプロンの着用：正しく着用する。（ひもの処理）				
	④	☐ ネット帽子の着用：帽子から髪の毛が出ていない。				
	⑤	☐ 名札の着用：エプロンのフックに、水平に着ける。				
	⑥	☐ 鏡を見て、自分の服装を確認する。				
	2 作業開始 の連絡	① ☐ 審査員に連絡：手を挙げ、審査員の目を見て、適切な大きさの声と態度で伝える。			「(名前) です。 始めます。」	
	3 手洗い	①	手洗い： ☐ 予備洗浄(手の平と甲、指、手首) ☐ 洗剤洗い(手の平と甲、指、手首、爪の間まで) ☐ すすぎ洗い(手の平と甲、指、手首)			☆計時スタート 手洗い (制限時間2分30秒) ☆計時ストップ
		②	☐ ペーパータオル：水気がないように手を拭く。			
③		☐ 流し台：水気をペーパータオルで1回通り拭く。				
④		☐ アルコール消毒：各部位(手の平と甲、指、手首)によく擦り込む。				
4 商品の 確認	①	☐ 商品の確認：不良品を見つけて、取り除く。 ☐ 分別：不良品を除外品用コンテナに入れる。		☆計時再スタート		
	5 袋入れ・ 計量	① ☐ はかりを作業の行いやすい位置に移動する。 ② ☐ 袋入れ：商品が当たって傷むことがないように、商品の特性に応じて、丁寧に袋に入れる。 ③ ☐ 計量：指示された重さの範囲内になるよう、はかりで計量しながら、袋に入れる商品の量を調整する。 ④ ☐ 確認：指示書に示された数の袋を作る。				

6 袋閉じ ふくへじ	①	☐ シーラーを作業の 行 い や す い 位置 に 移動 する。			
	②	☐ 袋 閉 じ：シーラーを使い、余 分 な 隙 間 が ない よう に 袋 を 閉 じ る。			
	③	☐ 確 認：指示書のとおり、袋 を 作 る。			
7 ラベル 貼 り は	①	☐ 記 入：袋 詰 め し た 日 付 を 正 確 に 記 入 す る。			
	②	☐ ラベル 貼 り：袋 の 中 央 に ラベル を 貼 る。			
	③	☐ 全 て の 袋 に ラベル を 貼 る。			
8 コンテナ 詰 め つめ	①	☐ コンテナ 詰 め：袋 を 完 成 品 用 コンテナ の 端 か ら 詰 め て 並 べ る。			
		☐ 丁 寧 さ：袋 を 置 く と き に、大 き な 音 を た て ない。			
9 片 付 け かたづ	①	☐ 片 付 け：使 用 し た 道 具 類 を 元 の 位 置 に 戻 す。			
		☐ 道 具 の 扱 い：は か り は 両 手 で 持 ち 運 ぶ。			
10 作 業 終 了 の 報 告 さぎょうしゅうりょうのほうこく	①	☐ 審 査 員 に 報 告：手 を 挙 げ、審 査 員 の 目 を 見 て、適 切 な 大 き さ の 声 と 態 度 で 伝 え る。		「(商 品 名) の 袋 詰 め が 終 わ り ま し た。不 良 品 の (商 品 名) が 入 っ て い ま し た の で、取 り 除 き ま し た。あ り が と う ご ざ い ま し た。」	
か か っ た 時 間 じかん		分 ぶん	秒 びょう	〇 の 数 かず	こ 個 けいじ ☆計時ストップ

《コメント》

きゅう
級

〇の数 ^{かず}	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
きゅう級	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

ひょうか
〈評価について〉

- できていない評価項目^{ひょうかこうもく}の口^{くち}に、「レ」を入れ^{チェック}ます。
- 評価項目^{ひょうかこうもく}ごとの評価内容^{ひょうかないよう}を全てクリア^{すべ}することで、課題^{かだい}に合格^{ごうかく}したものとし、評価欄^{ひょうからん}に〇が付^つきます。
- 評価項目^{ひょうかこうもく}1 ①の課題^{かだい}が合格^{ごうかく}しない場合には、〇の数^{かず}に関わらず、級^{きゅう}の認定^{にんてい}は行^{おこな}いません。
- 3の手洗い開始^{てあら}から15分^{かいし}を超えた場合は、その時点^{ふん}で検定^こを中止^{ばあい}し、級外^{じてん}とします。
(手洗い場^{てあら}から、作業場所^{さぎょうばしょ}までの移動時間^{いどうじかん}は、制限時間^{せいげんじかん}に含^{ふく}みません。また、手洗い^{てあら}が2分30秒^{ふん びょう 30}を超えた場合は、検定^{ばあい}は続^{つづ}けますが、手洗いの項目^{てあら こうもく}は不合格^{ふごうかく}となります。)

《場の設定・必要な物品》

《ボード》

商品の形状によっては、
袋への入れ方（向き）を
具体的に記載する。

- () の商品化 指示書 ○月○日
- ① 袋詰め・計量
 - ・ (商品名) を () g ～ () g の範囲で袋に入れ、
() 袋作る。
 - ・ 見本のとおりに、袋 入れする。
 - ② ラベル貼り
 - ・ 本日の日付をラベル用のシールに書く。
 - ・ 袋の中央の見えやすい所にラベルを貼る。

見本

ごみ箱

(袋 入れした商品の見本)

スタート位置

かがみ
鏡

ネット帽子

除外品用
コンテナ

完成品用
コンテナ

ラベル
シール

マジック

シーラー

ビニール
袋

デジタル
ばかり

商品用
コンテナ

《手洗い場》

てあら 手洗い用洗剤
アルコール消毒液
てあら 手洗い場
爪ブラシ、受け
ペーパータオル

ごみ箱

※ 手洗い場の位置は、検定会場の状況に応じて変わる場合があります。

技能検定実施に必要な物品

	品名	寸法または規格	数量
1	エプロン	受検者が準備（ひも付きのエプロン）	1 着
2	名札	胸に留めるタイプ	1 個
3	ネット帽子	円形 約 28cm	1 箱
4	手洗い用洗剤	ポンプ式	1 ボトル
5	爪ブラシ	縦 102mm×横 50mm×高 43mm	1 個
6	皿（爪ブラシの受け皿）		1 枚
7	ペーパータオル	縦 220mm×横 170mm	1 箱
8	アルコール消毒液	ポンプ式	1 ボトル
9	ごみ箱	48 ℓ	2 箱
10	商品		必要数
11	商品（不良品）		適量
12	ビニール袋（OPP 袋）	縦 250mm×横 150mm(商品により変更あり)	10 枚
13	コンテナ	33 ℓ	3 個
	商品用コンテナ	11（商品により 14 のかごに変更あり）	（1 個）
	完成品用コンテナ	33 ℓ	（1 個）
	除外品用コンテナ	33 ℓ	（1 個）
14	かご	縦 30cm×横 25cm×高 10（商品により変更あり）	（1 個）
15	シーラー	横 220mm×高 148mm	1 台
16	シーラーのテープ（黄色）	幅 9mm×35m	1 本
17	デジタルばかり	5kg 計量用	1 台
18	ラベル用紙	縦 15mm×横 27mm	1 枚
19	マジック（黒）	細字用油性マーカー（キャップ式）	1 本
20	作業台	縦 900mm×横 1800mm×高 740mm	1 台
21	掲示用ボード	A2 版用紙を掲示	1 個
22	鏡	スタンドミラー（姿見）	1 台

